

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団 裕正会		
事業所名	グループホーム ウェルケアSun		
所在地	( 223-0058 ) 横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の重度化に伴い業務中心の日々になりつつあります。散歩の代わりに外気浴を行い庭の花をめでたり、室内での歌やゲームで過ごして頂いております。そんな中、非日常のイベントとして夏祭り、クリスマス会にご家族をお呼びして盛大に行っています。夏祭りは利用者に浴衣、甚平等ADLに合わせたものを着て頂き格好からお祭りを楽しんで頂けるようにしております。法人で購入した綿菓子機や大型のかき氷機を貸して頂いたり、職員手作りの神輿や大太鼓も用意しました。法人内GHの利用者に来て頂き大いに盛り上がりました。クリスマス会はおしゃれをして職員の出し物や音楽療法士の演奏など家族と共に楽しめました。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年1月19日	評価機関 評価決定日	平成30年2月28日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>&lt;事業所の優れている点&gt; ◇法人理念と事業所運営方針に基づき利用者本位のケアに当たっている。 ・法人理念である「大切な人だから、一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活」を基に「認知症の緩和」「自立支援」「日常生活の充実」を運営基本方針として、日常の利用者へのケアに反映している。 ◇法人内各事業所との連携の充実 ・近隣に所在する法人内の介護老人保健施設、クリニック、訪問看護ステーション、各グループホーム等と密接な連携を図り、法人研修・車両の貸与・栄養指導・調理・各種イベントへの参加・往診・リハビリ・健康相談・24時間支援体制などが確立されている。</p> <p>&lt;事業所が工夫している点&gt; ◇利用者本位のケアプランの作成 ・利用者毎の担当職員を決めて、日常生活必要品の整理や生活環境の整備などの目配りをしている。ケアカンファレンスでは担当職員が中心になって家族の希望や職員の意見を集め計画作成担当者へつなげて利用者本位のケアプランを作成している。 ◇家族との情報の共有 ・利用者の毎日の食事摂取状況・睡眠・排泄・入浴の状況、行事、コメント、お小遣い使用状況を報告書に記入して、毎月家族に知らせている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ウェルケアSun
ユニット名	大地

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/>	1, 毎日ある
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまにある
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまに
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/>	1, 大いに増えている
	<input type="checkbox"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="checkbox"/>	3, あまり増えていない
	<input type="checkbox"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="checkbox"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="checkbox"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実の運営基本に則り職員は実践を心がけている	・法人理念「大切な人だから」に基づき3つの運営基本を定め、利用者本位のケアに取り組んでいる。 ・入職時に理念等を説明して職業意識の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、運動会への参加等交流に努めている	・町内会に加入し、地域の夏祭りや防災訓練に参加し、運動会には利用者も招待されている。 ・小学校特別学級と交流し、中学生、高校生のボランティアも来訪し、感想文が届く。 ・事業所の夏祭りでは近隣住民が利用者と交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護老人保健施設ウェルケア新吉田、横浜市グループホーム連絡会等の研修に参加し知識向上に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者やサービスの提供状況を報告し評価、要望、助言等を頂いて改善に努めている	・運営推進会議には町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加し2か月毎に開催している。 ・現状、事故、行事予定等を報告し、生活状況をスライド映写し意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港北区福祉保健センター、地域包括支援センターなどと連携に努め介護保険制度の円滑な運営に努めている	・要介護申請代行や生保相談時には港北区の担当者に面談し連携を図っている。 ・横浜市グループホーム連絡会で情報交換をし、研修会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者本人の生活状況を常に把握して安全で快適な生活を提供出来るよう取り組んでいる	・職員は入社時研修で身体拘束禁止を学び、身体拘束をしないケアを実践している。 ・不適切な発言があると管理者はその都度注意している。 ・玄関、ユニット出入口は日中は開放し自由にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文献は職員に配布している複数の職員が業務を共有することで虐待がおこなわれないような環境づくりを整えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をより深く学ぶ機会を作り、必要である方を知り、話し合いの場を持って対応できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に分り易く権利義務を明示し十分に時間をとって説明し本人及びご家族の理解と同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者との話をする機会を多く持つように心がけ、話の内容によっては家族に相談しカンファレンスを行うことによって改善に努めている	・家族の来訪時や電話連絡時、年2回の家族会等で意見、要望を、利用者からは生活の中で聞いている。 ・家族から職員の名前を知りたいとの要望があり、玄関に顔写真と氏名を掲出した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き必要に応じて話し合いを行う。月1回のユニット会議で意見交換をして改善に努めている	・職員は毎月のユニット会議や申送りノートで意見や提案をする。ユニットリーダーが対応している。 ・職員の提案で朝のシフト時間を変更して、業務の流れがスムーズになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い環境を整備する事を目指して、入居者及び職員を取り巻く環境に合わせて職員の勤務の調整などを行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は母体のウェルケア新吉田にて研修を行っている希望者は内外の研修会に参加をしてスキルアップに励んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に参加している。また、同じ法人内のグループホームとの交換研修を行いネットワーク作りに努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の今までの生活スタイルになるべく近づける様に努力しよく話を聞き、信頼して頂ける様にしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接時、ご家族の不安や疑問に答え、本人とご家族の思いに沿った援助を共に考えてホームで出来る事を話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明をし利用者のご家族の要望に沿っているかの話し合いを持っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事があれば職員と一緒にして頂き、出来ないことはお手伝いするようにしています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告書を通じご本人の情報をお知らせしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が来られた時は最近のご本人の様子等を話しているイベントでご家族が参加できるようにしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化で友人の来訪はなくなった。馴染みの美容院へ家族と行く人や、パン屋へ行く人を支援している。</li> <li>・電話の取次ぎや年賀状を手渡している。携帯電話の操作を職員が手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事は皆で一緒に話をしながらして頂いたりゲームや歌の会など皆で出来る事をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養型の病院へ入居された利用者のご家族より、その後の様子を連絡して頂き関係性を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり、それぞれ好きな事、嫌いな事があるのでその方の意向に沿って行うようにしています	・利用者の思いや意向は日常生活の中で聞き取るようにしている。把握が困難な場合は表情で読み取っている。 ・把握した情報は個人ファイルに記入し、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしの情報を見て、ご本人とも話をしていく中で把握する様にしています ご家族からも話を聞いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でよく観察をするように努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護、医療等の方たちと話し合い本人がより必要としている介護計画をたて定期的にカンファを行いながら変化に対応している	・3か月ごとに開かれるケアカンファレンスでは、居室担当者の情報を基に、医師や看護師の意見や家族の要望も入れて利用者への支援について話し合い、ケアプランに反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調や行動、言動を記録し職員間で共有する事で介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によりその時のニーズに対応できるように支援やサービスを考えより良いサービスが出来るようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協に依頼しボランティアに来て頂いています		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を受けている状態に変化があれば速やかに家族に連絡したり話し合いの場を設けている歯科医も週1回来られ口腔ケアと治療を行っている	・利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の内科往診を受けている。歯科往診と訪問看護、マッサージも毎週来ている。 ・ヒフ科、眼科、精神科は在宅総合診療を利用している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か変化があればすぐに訪問看護師に報告をし指示をいただいている。訪問看護は24時間対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院時は主治医より紹介状を書いて頂きスムーズに受診、入院が出来るようにしていただいている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応にかかわる指針」について説明を行い同意を頂いている。また、実際に重度化した場合にも改めて話し合いを行い連携したケアを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に重度化対応指針を説明し同意を得ている。</li> <li>・重度化の進展に伴い家族と話し合いを重ね、家族、医師、看護師、職員が連携し方針を共有して支援している。</li> <li>・看取りニーズは多くなってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りのニーズが多くなっているため、職員が安心してケアに当たれるように、ターミナル研修が継続的に実施されるよう期待します。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがありそれに沿って行える様にしている。年に1度、母体で急変時の対応の研修会を実施しているが、業務上参加できていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルが定められており、災害時に対応できるようになっています。年2回の避難訓練も実施しており、水災害時の避難訓練も実施した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は年2回、内1回は消防署が立ち合い、1回は自主訓練をいずれも夜間想定で実施している。地域住民として建物オーナーが協力している。</li> <li>・非常用水、食料3日分と防災用品を備蓄している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を尊重しプライバシーを守りつつその人に合った声掛けや対応を心がけています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への呼びかけは姓にさん付けにするなど、言葉遣いを職員間で注意しあっている。</li> <li>・トイレへの声かけは利用者に配慮して小さな声で誘導している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で要望などあれば内容をお聞きし自己決定できる様支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様の立場に立ちその人に合った日々を過ごして頂ける様努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の好みもお聞きしつつオシャレが出来る様環境作りにも気を使い支援しています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の見た目もおいしく見える様盛り付けも考えながら好み等も配慮し食器拭きも出来る方にやって頂いています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の好みに合わせて、味付けを変えたり、メニュー以外の食事を提供している。</li> <li>・食事を楽しめるよう盛り付けを工夫したり、和洋の食器を用意している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のトータル量を把握して一人ひとりの状態に合わせて体調などもみて摂って頂けるときはなるべく取って頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合った口腔ケアを心がけています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの回数が少ない方には声がけしています おむつの交換する時間も考えて無駄のない排泄を行っています	・利用者個別の排泄表により、トイレ誘導を行い、排泄の自立へ支援している。 ・夜間にポータブルトイレを利用することで居室内での尿漏らしが改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	立位を取るのが難しくなっている方には立ち上がりの練習や時々体操なども取り入れたり水分補給の提供をしています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入って頂ける様誘導の声掛けも工夫しています 個々に応じた支援を心がけています	・週2回入浴している。 ・菖蒲湯や好みの入浴剤を利用して入浴を楽しめるよう支援している。 ・入浴を好まない方には担当者を変更したり、入浴日を変更して対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯時間等決めず利用者が寝たい時に声掛けして支援を行っている。その人によって午睡する時間等も決めて援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の飲んでいる薬はいつでも確認できるようファイリングしている。新しい薬等出た時には状態を確認し医師に報告を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活をお聞きし出来る家事を行ってもらえるよう声かけ、準備を行っている。食べたいものなどお聞きし一緒に買い物に行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある時や天気のいい時など近隣へ散歩に出かけたり買い物、外気浴などでかける必要時家族にも協力してもらい一緒に協力してもらい一緒に出掛けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の協力を得て、外食やなじみの美容院やベーカリーへの外出を支援している。</li> <li>・天気のいい日は近くの公園での散歩を楽しんだり、庭で外気浴をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の重度化に伴い、外出が困難な利用者が増加しています。外出の代替として、多くの利用者が楽しめるような外気浴の体制作りが期待されます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお小遣いをこちらでお預かりし、買い物の時などは職員が持って出るようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには電話をかけ本人と話をしてもらうようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには大きな表示を貼ったり明るすぎる場合には照明を落とすなど利用者の希望により配慮している居室には本人の物を置くようにしている	・居間に小学生からの手紙や写真、押し花などを掲示し、生活感や季節が感じられる。 ・温湿度計をリビングに備え、寒い時期には加湿器を利用して快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士一緒におしゃべりが出来たり、独りになりたい時には違うテーブルや席を用意しお食事やおしゃべり島行える様にしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなるべく見慣れたものを置くことができるようにご家族にお願いして持参してもらっている	・テレビやたんす、好みの絵など自由に持ち込めるようにしている。 ・家族の同意を得て足元センサーや転落防止柵を設置して安全にも注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や事故などが起きない様配慮するとともに筋力低下を防ぐためのリハビリ機能評価など他職種とも連携しながら自立を目指している		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ウェルケアSun

作成日

平成30年2月28日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	事業所として看取り実績は少ない一方、住み慣れた事業所で最期を終えたい意向が増えてきているので、職員への研修により、介護支援の向上を一層進めていくことが望まれます。	看取り対応の利用者が出たときにどのような対応をするか明確にすることで、職員が安心して対応できるようになる	看取り対象者が出たらターミナルケアマニュアルを再読し対応方法について再確認しておく。ご家族や職員が支援内容を理解できるように具体的な援助方法を明記したものを作成する。研修に参加する様に努める。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。